

平成 27 年 4 月 22 日

## 第 9 回 仙台市中学校長会総会 挨拶

会長 八 卷 賢 一

本日はご多用の中、仙台市教育委員会次長 新山弘幸様、学校教育部参事 吉田秀夫様をはじめ、各関係機関の皆様、さらには歴代会長の皆様のご臨席を賜り、第 9 回仙台市中学校長会総会を開催できますことを、厚く御礼申し上げます。

昨年度末には、8 名の会員の皆様が定年退職されました。30 有余年にわたって学校教育に携わり、そして、教員人生の最後には、最高責任者として学校経営に当たられた、そのご功績に敬意を表するとともに、改めて感謝を申し上げたいと存じます。

仙台市中学校長会は、この度新たに 8 名の新会員と 2 名の再入会会員をお迎えし、会員数 65 名で今年度も新たにスタートすることができました。新しく入会された皆様の心から歓迎いたしますとともに、本会に新たな風と活力を吹き込んでいただきますようご期待申し上げます。

さて、学校の現状や社会環境に目を向けてみますと、子供たちの幼少期からの基本的な生活習慣の欠如、就学援助受給生徒や片親世帯の増加、情報機器端末の普及による問題行動の潜在化、保護者の経済格差や地域社会の教育力の低下、社会全体の価値観の多様化や規範意識の低下など、学校だけでは対応が困難な問題が年々深刻化しております。また、一方では、私たちの生活が直接的・間接的に様々な形で国際情勢の影響を受けること意識せざるを得ない今日、激動する国際社会を主体的に生き抜く日本人に必要とされる資質や能力の育成が一層重要視されており、また、新たな教育用語となりつつある「アクティブ・ラーニング」に象徴的に示されているように、生徒がより能動的に学ぶ力を育成することなど、グローバル化が進展する中で我が国が目指すべき学力の質的な転換が提唱されております。その具現化を期して、平成 32 年度の完全実施を目途に学習指導要領の全面改定の議論がすでに始まっており、今後数年の内には、学校現場は教育改革の大きなうねりの中に飲み込まれることとなります。

そのような中であって、私たち校長が果たすべき役割や責務は何なのか、改めて問い直す必要があると考えます。学校現場の様々な場面で、私たちには的確な判断力やリーダーシップが求められますが、校長にとって最も大切な役割は、「教職員にとって、いかに働きやすい職場をつくるか」であると私は考えます。学校は組織として機能しますが、昔から「教育は人なり」と言われているとおり、教育活動の成否は教職員一人一人の優れた資質能力や豊かな人間性にかかっています。学校教育法に示されているように、生徒の教育をつかさどるのは教諭であり、私たち校長は、それを監督する立場、すなわち、その本質は

教職員を支え、育てる立場にあることを忘れてはならないと考えます。一人一人の教職員が意欲や自己肯定感をもち、自主性や創造力を発揮し、互いに協力しながら、そして笑顔で教育活動に取り組める、そのような職場をつくりだすことに、我々校長は、まず取り組む必要があると考えます。

また、本日、一堂に会している私たち会員の 65 校では、全部で約 27,000 人の生徒たちが学んでいることを思うとき、仙台市全体の中学校教育の充実を願わずにはられません。1校1校それぞれの中学校の教育力がより確かなものになることで、その総和として仙台市全体の中学校教育が充実し、それがまたそれぞれの学校に還元され、相互に良い影響を与え合う、そのような学校集団を私たちは目指すべきであると思います。東日本大震災を契機として、「郷土」や「故郷」に思いをはせることの大切さが改めて認識されました。今それぞれの中学校の生徒にとって、将来、仙台が自分の故郷となります。仙台で育った子供たちに私たちの未来を託せるよう、65校がしっかりと手を携えていかなければならないと考えます。仙台市中学校長会が組織としてあることの存在意義は、まさにそこにあります。会員それぞれの英知を寄せ合い、互いに支え合い、また、学び合いながら、全市的な視野でそれぞれの学校経営に鋭意努力していく、その意識を共にし、具現化を目指す場が、この校長会であります。仙台から巣立った子供たちが将来社会で活躍する姿を私たちは直接目にすることはできないかもしれませんが、私たち校長会の取組や努力は、仙台はもとより、国家および社会の次代を担う形成者の育成に、多少なりとも寄与するものと信じたいと思います。

以上、総会に当たり、校長そして校長会の在り方について、所感を述べさせていただきました。

最後になりますが、本日ご臨席を賜りました仙台市教育委員会、各関係団体、そして歴代会長の皆様には、今後も仙台市中学校長会に対し、ご指導、お力添えをいただきますようお願い申し上げます。